

第7回 王寺町総合計画審議会

日 時	平成30年2月20日(火) 14:00~16:00
場 所	王寺町役場3階 応接会議室
出席者	委 員 楠本委員、北村委員、中川委員、直田委員、池内委員、井村委員、川辺委員、高島委員、仁井委員、福井委員、藤岡委員、藤崎委員、若林委員、松井委員 事務局 王寺町…古川総務部長、幸田政策推進課長、稲葉総合戦略係長、海原総合戦略係主事 ランドブレイン株式会社…山北、甲斐
次 第	1. 開会 2. 住民アンケート結果について 3. 住民ワークショップ「未来会議」結果について 4. 基本構想(案)の修正について 5. 今後のスケジュール(案)について 6. 閉会
1. 開会	<p>事務局： 本日はお忙しいなか、王寺町総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。ただいまから、第7回王寺町総合計画審議会を開催させていただきます。本日の審議会の委員の皆さまの出席は14名、委員総数15名の過半数の出席であり、総合計画審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立することを報告させていただきます。本審議会は昨年9月に第6回を開催させていただき、その後のスケジュールとして、住民アンケート調査および住民ワークショップを行っていくという説明をさせていただきました。今回の第7回の審議会については、昨年の10月から12月に行った住民アンケート調査の結果と住民ワークショップの結果を踏まえた基本構想(案)の修正版について、皆様に審議いただきたいと考えています。それでは、開会にあたり中川会長よりご挨拶いただき、議事の進行をよろしくをお願いします。</p> <p>会 長： 先ほどのお話にありましたように、前回の審議会が9月でしたので、頭の中がきれいさっぱりとなっているかもしれませんが、思い出しながら前に進んで行けるよう、ご協力いただきたいと思います。皆様の活発な議論、ご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは次第に沿って進行させていただきたいと思います。案件「住民アンケート結果について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>2. 住民アンケート結果について 事務局説明</p> <p>会 長： これは報告事項ですので、ご所見がございましたらご意見ををお願いします。全員の意見を賜る時間はありませんので、ご希望の方につきましてご発言をお願いいたします。</p> <p>委 員： 回収率が少し低い印象を受けました。このような統計調査の回収率は通常、40%から50%程度かと思いますが、督促はされてないですか。</p> <p>事務局： 督促はしておりません。</p> <p>委 員： 督促をすれば10%程度は上昇すると思います。</p>

家族構成もそうですが、年齢別割合について、60代・70代以上が過半数を超えているという数字が出ており、この比率は、王寺町に実際に住んでいる方の比率とは離れていると推察されます。データを読むときにこのズレを念頭に置かなければ、大事ではあるものの、高齢者の方々の意見に偏重してしまうと思われ、これから王寺町に入ってきていただきたい若い方々の意見がやや薄くなる傾向があることを認識いただきたいです。

それから、住み続けたい理由について、「実際に住んでいるところに住み続けたい」というのは、誰しもが感じる事かと思いますが、「便利さ」がクローズアップされていることが大きなポイントだと思います。ただその一方で、駅前に利便性の高い施設がたくさんできれば良いかと言えば必ずしもそうではなくて、将来の希望するまちの姿では、「駅前に高層ビルや高層マンションが立ち並ぶ都市機能を持ったまち」は低く、住民の意識のずれがあると思われ、「便利なことは良いがビルが立ち並ぶことはあまり好まない」といった、反する部分があり、他の箇所にも少しずつ垣間見られます。このことを注意してアンケート結果を見ていかなければ間違ってしまう可能性があるように思います。

最後に、18ページや20ページの「重要度が低い」という指標について、「人権啓発・人権教育」や「男女共同参画社会の推進」などが非常に低くなっていますが、これは必ずしも住民がそれらの取組について必要ないと考えているわけではなく、日々の生活の中で必要と考える医療や福祉などが挙げられているだけであり、政策的にこれらの重要性が低いということではないと思われ、「重要性がない」という言い方をすることで、「これらに取り組むのはおかしい」、「ニーズがない」と言われてしまうと困るので、表現については考えた方が良くと思います。

会 長： 今のお話は分かりいただけますでしょうか。18～20ページのスコア分類の取扱い方に関するご意見です。これに関して、「満足度」については「要求への対応」ということで測ることができますが、「重要度」に関しては「誰が重要と思うか」によって変わってくるように思います。直田委員がおっしゃるように、この分析においては人権に関して重要と思われていないと思うかもしれませんが、それは要求課題としては求められていないということです。しかし、実際の必要性は非常に高く、必要課題であることに間違いはありません。従って、必要課題と要求課題をここでどのように判別したら良いのかという時に、「要求課題は満足度で測れるが、必要課題については測れない」ということを心得ておいた方が良くと思います。これをもって、「必要課題は達成されている／達成されていない」と判断することは、間違いを生みます。

それでは次の案件「住民ワークショップ「未来会議」結果について」事務局から説明をお願いします。

3. 住民ワークショップ「未来会議」結果について 事務局説明

会 長： これについても、ご質問、ご意見、ご所見があればお願いします。

委 員： ワークショップの実施ご苦労様でした。説明していただいた資料の課題、取組に対して、第3回目では住民、地域、事業者、行政の役割について、それぞれに何ができるのかを考えたということでした。せっかくですので、行政がそれに対して実際に対応するか否かは別として、ワークショップの中のものだけで結構なので、どのような役割が出たか、概略的にご紹介いただけないでしょうか。

事 務 局： まちづくり目標ごとに5分野に分かれ、また様々な施策について話し合っていました。例えば「安全で安心に暮らせるまちづくり」の分野に関して言えば、行政に対してもっと情報を発信してほ

しい、小まめな情報を入れてほしいという強い要望がございました。災害に関して自分たちに何ができるかというところでは、例えば自治会で事前に避難ルートを確認しておくなど、自分たちでできる範囲の内容についてアイデアを出し合っていました。

また、「人を育みみんなが学べるまちづくり」の分野では、住民の方々ができることとして、ゲストティーチャーなどボランティアとして参加できる枠組みを作って、それに住民として参加するといった取組が挙げられました。事業者の役割に関しては、住民の方に参加いただいたワークショップですので、なかなか難しい部分もあったのですが、計画段階から色々参画していただくなどの意見が寄せられました。以上です。

委員： 私も第3回目に参加させていただいたのですが、若い人から年配の方まで、一生懸命議論してくれていました。あのワークショップに参加していただいた方とはあれで終わりでしょうか。もったいないように思います。

事務局： 第3回目のワークショップでも話が出たかと思いますが、一人の方から、「せっかく集まる機会があったのだから、また集まってまちづくりについて色々考える会を作ろう」という提案をいただき、10人程度の方々がやりたいということで手を挙げられていました。その後の集まりは、自主的な活動として進めていただき、行政と連携しながらやっていくという形でその場は終わりましたので、今後、どのような活動をされているかなど、連絡を取りながら進めていきたいと考えています。

委員： 住民参画という視点でのワークショップに参加して下さった方々ですので、今後も一生懸命取り組んでくれるような気がします。

会長： 今出ましたご意見に関して、全員で共有したいので繰り返しますが、まず直田委員のおっしゃったことについて、ワークショップで出てきた意見は、総合計画の基本計画にブレイクダウンして貼り付けていく参考にしたいが、行政がすることだけの総合計画を作る時代ではない。生駒市や香芝市のように、行政が行うこと、住民もしくは住民団体が行うこと、商工会議所など民間団体が行うことなどを分類しながら役割を貼り付けていく方向で策定するということであるならば、このワークショップもその方向性で整理できたのかということをもう少しお聞きになりたかったのではと思います。

例えば、若者が高齢者を助ける仕組み作りの話が出てきていますが、この御用聞きサービスについて、良い案だとは思いますが、誰が制度を管理するのかという点が抜けています。誰が何をするのかを貼り付けていくことがこれからのワークショップで大事なことであり、アイデア合戦も大事だと思いますが、これから大事なことは、役割分担の確認合戦であると考えます。言いたいことを言うのは良いけれど、実行する責任をどのようにとるのかということに関しては、行政も民間も同じです。それらを踏まえたくて次の総合計画を策定していくという意味で直田委員はご意見を述べられたのだと思います。

また、二つ目におっしゃったことについては、このような未来会議に生き生きと取り組んで下さる住民は、大切にしていかなければならないお宝住民だということかと思います。そのような人達の活用の仕方や、どのようにして王寺にとって良い応援団に導いていくかというプロデュースの仕組みを考えていかれてはどうか、というご意見でした。これは大変重要な政策課題であり、様々な方法があると思います。例えば総合計画の進捗状況を評価しながら助言・提案をもらうような委員会を作るのも一つの方法だと思います。また、まちづくりや特定の課題に関して、ワークショップのように集

まってもら、あるいは各部局に対して素晴らしい人がいるということで推薦し、そこに関わって
てもらなど、色々な方法があります。そのような形で仕上げしてほしいということでした。
それでは次の案件「基本構想（案）の修正について」説明をお願いします。

4. 基本構想（案）の修正について 事務局説明

- 会 長： これについてもご所見があればお願いします。なければ順番にご発言をお願いします。
- 委 員： 3年の間に変化したことなどがきっちりとグラフ化され分かりやすくなっており、私が考えられない
細かいところまで加筆できていると感じました。
- 委 員： 会長が先ほどおっしゃったように、計画は行政が作ることは当然だとして、誰がいつ何をやるのかに
ついて具現化していくことが、これからの行政の力・議題だと思います。
- 委 員： 総合計画以外で気が付いたことですが、ワークショップでも挙げられていた商工会が、これから取り
組もうとしている空き家対策に関してですが、駅前には再開発されて十数年になるものの、後継者不足
でシャッターを下ろさないといけない店舗が増えています。それを見越した外部から商工会に対して、
「王寺町に空き店舗はないか」と問い合わせがあり、探すのですが、その情報を一番知っているのは
銀行や町役場の方であり、町へ空き店舗に関する情報を尋ねたら既に入居が決まってしまっているな
ど、商工会になかなか最新の情報が入って来ない状況にあります。ワークショップにおいて、いろい
ろな空き家の活用に関する意見が出てましたが、そのような取組をもっと広めていただいて、少しで
も空き家対策、後継者不足を解消できればと思います。
- 会 長： これにつきましては、計画の体系で言えば、施策9「住宅環境」に関連する記述が入ってくるべきか
と思いますが、事務局いかがですか。
- 事 務 局： 空き家対策については、既に国に交付金をいただきながら計画を立てて進めている事業です。情報が
ないという話がありましたが、やはり連携しながらやっていかなければならないと考えております。
基本計画では施策の9「住宅環境」入ってくると考えています。
- 委 員： 高齢者向けの交通を十分に考えていただきたいと思います。王寺町は一人暮らしの方が増えているよ
うに思います。そのような方が病院や買い物などに行っています。バスも出ていると思いますが、自
宅の近くまで来ていないので、そのアクセスを考えていただきたいです。コミュニティバスを走らせ
ることで、病院や買い物などに行けるようにしていただきたいと思います。バスも1時間に1本程度
でわずかであり、十分ではありません。足が悪い高齢者が増えてきているので、早急に考えていただ
きたいです。
- 会 長： 基本計画で議論するとすれば、施策12「公共交通」と施策20「高齢者福祉」のいずれになるでし
ょうか。もちろんその問題に関しても、行政ばかりの責任ではなく、奈良交通はどうか、地元の
必要と感じている人たちはどの程度コスト負担することができるかなども、考えなければならないよ
うに思います。
- 事 務 局： 現在作成中の基本計画には今のところ公共交通と高齢者福祉のどちらの施策にも明記しています。高
齢者の買い物困難者の対策事業として、奈良大学と連携しながら、現在研究を進めているところで、
来年度提言が出てくることになっています。アンケートにおいてもそのような要望は多くなっており、
それに対して、会長もおっしゃったように、行政がどこまでできるのか、奈良交通や民間も含めてどの

ような役割で実施するのか、検討していきたいと考えております。

会長：高齢者の交通については検討課題には挙がってくると思いますが、コミュニティバスの取組みは、厳しい言い方をすれば、ほとんど失敗しています。そこをどう乗り越えるかが次の課題です。

委員：前の町長の時代に、私の住む藤井地区に試験的に1年半ほど導入されていたバス路線が上手くいかずなくなってしまいました。町の施策のバスカードはもらえますがバス自体がなくなってしまいました。それから5、6年経って、お年寄りが非常に困っています。できるだけ分配的で広範囲な町の施策をお願いしたいと思います。

会長：確かに、おっしゃるように差し迫っている問題ですが、もっと先に高齢化してしまっている中山間部や近辺のまちでコミュニティバスなどの施策についてはトライアルしているものの、不思議なことに次々と失敗しています。せっかくコミュニティバスを走らせたのに利用者が少なすぎて、赤字が続き1年も持たないなどの状況です。それを乗り越えるのはどうすれば良いかというところから議論をスタートすべきだと思います。検討課題には間違いありませんが、いきなりコミュニティバスを走らせるというのでは、責任が軽すぎると思います。

委員：基本構想の第2章「まちの将来像」、第3章「まちづくりの方向性」に関連して言うと、王寺町は何によって生計を立てていくのかをはっきりさせることが重要だと思います。財政との絡みを踏まえ、工業都市、商業都市、ベッドタウン、観光都市など、まちの方向性を具体的にしていかないと、理念ばかりが並んでしまうことになるように思います。

会長：まちの将来像の前段の主要課題か、これからのまちづくりか、どこのトピックとして議論を進めるべきでしょうか。「この方向でいく」という具体的なところまで記載せず、「すべてを活性化させる」と記載した方が良いでしょう。実は、王寺町における総生産額、総消費額、他のまちから受け取っている分配額を見る方法は経済産業省のデータモデルに存在すると思われます。恐らく、生産と消費は土地の統計データで算出し、分配については個別のデータから算出するという方法だったかと思えます。それで王寺町の強みも弱みも出るとは思えます。その方法で算出してみたとして、給与所得者が王寺町を豊かにしている可能性もありますし、王寺町の製造業者が頑張って富を増やしている可能性もあるかもしれません。本当はそのデータまで見ないといけないのかもしれませんが、検討課題にしたいと思います。

委員：自助と公助に基づいた協働の組織づくりという枠組みが総合計画にも入っていると思いますが、先ほどから議題に挙がっていますが、具体的に進めるためには、誰がどのようにして実行するのかを施策ごとに記載いただきたいです。また、王寺町や奈良県だけの問題ではありませんが、人口減少と高齢化に対する課題もたくさんあると思います。とりわけ、活用というとおかしいかもしれませんが、高齢者の方々は、色々な人生を経験して様々な知恵や能力を持っておられると思います。今は人生100年と言われていることや、自身が元気になるという視点も踏まえ、王寺町の活性化のために、高齢者の方々の知恵を拝借する形で施策を作っていただけたらと思います。また、王寺町は従来、「スポーツと教育のまち」ということで取り組んできましたが、最近では下火になっていると思われますので、もう少し体力を活性化させる必要があります。体育協会などの組織も充実させていくべきです。また、一朝一夕にはいかないとは思いますが、それに関して各地域でどんな施設が必要なのか考えていく必要があります。

会長： 高齢者の活用という表現が相応しいかどうかという話がありましたが、「高齢者の活躍できる場を作る」が適切かと思います。基本計画においてもこの視点は強調していただきたいです。これは高齢者福祉だけに記載する事項でしょうか。生涯学習においても頑張ってもらいたいし、スポーツにおいてもリーダー・指導者として頑張ってもらいたいし、観光交流の支援者としても出てきてほしいです。また、良し悪しは別として、今の内閣は70歳からでなければ年金が出ない、70歳まで働いてほしいとしています。それを踏まえると、少なくとも70歳まではお金を儲けることのできる仕組みを考えなければなりません。それは、再任用・再雇用だけでなく、社会活動の中で一定程度の料金がもらえるなどの仕組みが必要です。

委員： 会長のお話にあったように、王寺町もお金を儲けることが必要だと思います。ただ、王寺町にはこれといった農産物がありません。王寺町の特産品としてフライパンが挙げられますが、皆所持しており、一度買えば2、3年は使い続けるものです。明神山などを活用して、大量に育てやすいしいたけを作って販売する、乾燥したものや生のものの直売店を作るといったことを考えてはどうでしょうか。またはさつまいもを作るといった話もありますが、大量にはできません。

また王寺駅の北側は、道路が狭く自動車が入りにくい、火事の時にもハンゴ車も入れないという状態であるため、再開発をしていただきたいです。町長が駅の南側にホテルを誘致するよう力を入れておられるわけですが、北側にも力を入れてほしいのです。また、お客さまに来ていただくばかりだけでなく、何かお土産として買えるものが無いと何もなりません。例えば、雪丸のストラップなどのグッズを作っていただくと良いと思います。雪丸は町外の方が非常に喜んで下さいます。私は町外の病院に行った際、看護師さんにその雪丸グッズはどこで販売しているのか尋ねられたことがあります。しかし、役場や商工会ではもう在庫が無いとか、既に作っていないとのことであり、もっとお金儲けの工夫をしていただく必要があると思います。また、上水道が県水に替わったことを踏まえ、町水の水を飲料水に変えて雪丸水を作るなど、お金を儲ける知恵を絞る必要があります。公民館を建ててほしい、バスを巡回させてほしいと言っても、お金がなければできません。奈良交通にも赤字と言われており、どこかでお金を捻出しないといけないと思います。公民館の整備や公園への健康遊具の整備など目的を定めた財源確保も考えることができると思います。

会長： 今のお話は「町はもっと金儲けをすべきだ」というものではありませんでしたが、中身はもっと上品なことを話っておられました。「まちの特色や名物を活かし、まちのブランド力を高める」、「商品単価の高い商品を活用する戦略」ということかと思います。産業が限られているにせよ、そこから出てくる商品をブランド化することは可能であり、それにもっと体系的に取り組めば良いということだと思います。ふと思いました、現在大阪はすごく外国人観光客が多く、泊まる場所が無いので困っていると聞きます。これに関して、「王寺町に泊まれますよ」と言えば来ると思います。外国人観光客はインスタグラム等で情報発信・拡散するため、さらなる増客が見込まれます。そのようなことを具体的に取組んではいかがでしょうか。影響力のある人がインスタグラムで掲載する方が、刷り物でパンフレットを作るよりも宣伝効果は高いです。そのようなことに取り組む組織は、行政や観光組織にもあるとは思いますが、本気になってマンツーマンで取り組むことで、最初の一家族から十家族になっていくと思います。和歌山の中辺路や熊野古道はオーストラリアの家族連れでいっぱいであり、全てインスタグラムの効果です。広報紙などは無駄です。そのような取り組みを記載してはいかがでしょうか。

委員：再度確認したいのですが、我々が最初に呼んでいただいた際には、平成26年からの総合計画を策定したいという話でしたが、総合戦略策定の話が出てきたことで中断になりました。今回は、平成31年からの基本計画に変更になっています。その一方で、町の都市計画マスタープランと立地適正化計画が都市計画審議会の縦覧を終え、都計審の審議で確定するという段階にあり、それ以外にも各課の福祉計画や教育計画が既に策定され、実施されている状況にあります。その辺りの進捗が分かりにくかったので、先般、事務局において資料を作成していただきました。

私の認識では、この基本構想・基本計画が基層となり、次に実施計画が策定され、そのうえで各課の計画が進んでいくという流れと考えていましたが、基本計画が中断していたということで、福祉計画など既に先行して実施されているものがあります。従って、それらのつじつま合わせが課題として出てくると思います。各計画との整合性を行政内部でチェックしなければならないように思います。また、ここ5年間で社会情勢が大きく変わり、例えば民営化できるものはするという流れになっており、大阪市営地下鉄も4月から民営化します。それを踏まえたうえで、これからの10年において、役所でやらなければいけない仕事、民営化していくべき仕事、地域のボランティアでフォローすべき仕事などの振り分けも、ある程度構想に入れて行かないといけない気がします。

最近はIT化が進んで、高齢者でもスマホやラインを使うようになってきており、我々が考えている以上にIT化は顕著に進んでいることから、これからの10年においては、そのような変化をどれだけ基本構想なり基本計画に盛りこんでいくかが重要かと思えます。

昨年大雨など、ここ2、3年で気象も予測を超えたものとなっています。今までは50年、100年間隔と言われていた豪雨も、想像できないような頻度で発生するようになりました。その点では、大和川、葛下川を抱えている王寺町においては、先を見込んだ防災対策を計画に盛り込む、密集市街地を災害に強いまちにしていくという方向づけも、これから10年間というスパンで位置づけは必要と思えます。

8年後に町制100周年を迎えますが、王寺町は、周辺地域との合併に失敗したというボディブローが効いてきて、奈良県の中で取り残されつつあるように思えます。その点、すぐに合併という話は考えなくていいだろうけども、町長が王寺町を中心とした4町連携の話をしていることも踏まえ、王寺町が周辺地域活性化のイニシアチブを握り、各市町村との連携を深めていくことも念頭に入れなければならないと思えます。王寺駅を中心に7キロ圏で円を描いたら、人口約30万人の人口になります。ここで王寺町がどのようにイニシアチブを握るかが重要と考えます。また、今は奈良県の中心地は、奈良市と橿原市に二極化している一方、西の中心地はぼやけています。この現状を踏まえ、広域行政の中心地を王寺町に持ってくるということを基本構想に折り込みたいです。勝手にトライアングル構想と呼称していますが、奈良、橿原、王寺を三角点にした構想を、10年間というスパンで入れ込みたいです。住民にとって夢のある基本構想を考えて行きたいです。

公共施設の管理も役人がやるのではなく、体育館やトレーニングジムなどの公共施設の管理をコナミなどが運営を行っているところがあり、そのようなところは利用率が高くなっています。これらのことを踏まえ、10年間というスパンの基本構想や基本計画を策定する必要があると考えます。

会長：交通整理をさせて下さい。まず今のお話の中で、皆さまが共通して疑問に感じておられることがあるかもしれないので、それを確認します。総合計画の策定は、まち・ひと・しごと創生総合戦略を作る

ことを優先にしなければならなかったもので、一旦先送りにしました。その結果、総合計画不在の期間ができました。これは非常に痛いけれども仕方ありません。また、総合計画というのは総称であり、正しくは基本構想、その次に個別の大綱を示した基本計画となっています。王寺町の場合、基本計画までがこの委員会での仕事だったと思いますが、若林委員のお話においては、実施計画の話が出てきました。町として実施計画を作るつもりはあるのかなのかどちらでしょうか。それによって、個別の中位計画との関係が問われてきます。

事務局： 実施計画につきましては、各事業の実施におきまして、単年度予算を具現化する時に計画させていただくという考え方です。

会長： この委員会においては実施計画まで目を向けなくても良いということですね。

事務局： はい。

会長： 総合計画に入ってくる基本計画と、都市計画マスタープランや高齢者福祉計画など各部局が既に策定した中位計画などとの整合性をどのように考えるかということです。「既に出てしまっている中位計画がたくさんあることを踏まえ、総合計画はそれを後追いしながら整合性を保たせるのですか」と若林委員はおっしゃいました。そのように進めなければならない側面はありますが、そうなれば次に、そんなことをしているうちに時代が変わってくるのではないかと、という疑問がでてきます。すなわち、ITの発達や環境の変動などが想定されるにも関わらず、後追いで策定してしまうと、時代に遅れてしまうのではないかと、ということです。つまり、社会状況の変化のスピードが今までより早くなるなか、計画の整合性をいかにして担保するのか、という疑問です。この二点に関する疑問を解消したいです。

私なりの解釈を述べると、総合計画は確かに町の最上位計画であり、一定の拘束性を持つものだと思っております。しかしながら、厚生労働省、総務省、経済産業省など国の省庁が、競って各市町村を言うことを聞かせるために各計画の策定を指示してきます。その法定計画を策定するために、行政が縦割りで苦しめられている側面がありますが、これを克服するために総合計画があるわけであり、こちらが上位計画であるという原則を確認しませんか。従って、総合計画の方針に反する中位計画があれば、中位計画の変更をお願いしたいです。今までは、各計画に合わせて総合計画を捻じ曲げてきました。これからは社会情勢に合わない場合はどちらも微調整するというように、弾力的に考えるべきです。「この章立てを変更したい」、「記載している事業を廃止して、新たな事業を提案したい」など何でも構いませんので、そのために審議会を使っていただきたいです。10年間、計画の体系を変更しないでいいとは全く思いません。このような方針でご理解いただけますでしょうか。

事務局： はい。

会長： 広域連携の問題に関して、計画の体系の施策7番目に記載されています。この部分は、大災害、大水害、大震災等からの再興支援の話も含まれます。これは、近隣の市町との連携だけではなく、青森県のどこと連携するのか、といったことも含め議論をする必要があります。このことは防災に記載しても良いと思います。また、官民連携は参画協働で議論するべきだと思います。

委員： 高齢化がどんどん進んでいくなか、先を見据えるということで、若者たちの意見をどんどん取り入れていただきたいなと思います。魅力あるまちづくりという観点からは、活気があるまちづくりが頭に浮かびます。介護施設や病院があって暮らしがすごく便利ということも良いのですが、それらばかり

が立ち並ぶだけでは、活気があり、若者にとって魅力あるまちとは言えません。このアンケートも20歳代の回収率がすごく低いです。また、先ほど会長もおっしゃったように、子どもたちも常にインスタグラムをやっていて情報が早いです。王寺町の雪丸にしても、インスタグラムで王寺駅の雪丸像に様々なコスチュームをつけて投稿され、それがテレビ局に取り上げられたりしています。そういった形で王寺町がSNSも活用していただけたらと思っています。若者が町を出て行き、また、若者を呼び込めないとすると、若者にこれからの財政を支えてもらえず、王寺町はこれから衰退していくと思います。そのため、若者の意見の活用を考えていただけたらと思います。

また、新しい取組をすると、そのお金はどこから出てくるのかよく聞かれます。税金を払っている住民のなかには財源に疑問を持たれている方もいると思いますので、出どころを明確にされた方が良いでしょう。

会 長： 藤岡委員がおっしゃったことは、若者が生き生きとしていて楽しんでいるまち、あるいはそのようなまちを作るためにはどうすれば良いかという問題意識かと思っています。それは、施策31、32、34、35あたりが該当するかと思います。施策32「青少年健全育成」は「不良化防止」のようなイメージがあるために異なると思われ、「若者が集まって楽しむことができる」という内容をどこかの基本計画の中で演出できないかということかと思っています。どの項目でも良いので、「地元民によるSNSの発信、来訪者によるSNSの発信を支援する」など、SNSの活用に関する文言を挿入してはいかがでしょうか。

事務局： SNSに関しては、施策2「広報広聴」に記載しています。

会 長： 「広報広聴」でも結構ですので、念頭に入れておいて下さい。

委 員： アンケートにも出てきた協働のまちづくりで感じたのですが、王寺町という小さい町の中の、さらに小さい地域における、自身の自治会などについては良くご存じであっても、王寺町全体としてどのような方向に向いているのかについては、ご存じない方が多いと感じます。広報紙を細かくは読んでいない方も多いため、情報発信を進めていくべきです。自分の能力をどこかで活用してほしいという方もたくさんおられると思いますので、生涯教育の拠点となる公民館などを活用して、町全体の人々が交わるような施策を考えて、こういう考えの人がいる、このような活動している人がいるなど、もっと広く目を向けられるような方法を考えていくことで、能力を引き出すというか、みんなが力を発揮できるような環境作りが必要と感じています。

会 長： これは施策1「参画協働」のところに該当するのでしょうか。33ページに「パートナーシップ」によるまちづくりの推進、34ページに「地域コミュニティの育成強化」という項目がありますが、これらを合わせて考えると、今回ワークショップに参加して下さった、能動的なお宝町民とコミュニティを支えてくれている人の二通りの人材がもっと交わり合える・知り合える仕組みがほしいということかと思っています。それは、先ほど話に出た、高齢者の人材活用にも関係してくると思いますが、イメージをさらに具体化してはいかがでしょうか。例えば、看護師、保育士、理学療法士、社会福祉士、弁護士、教員など、肩書を持っている人はたくさんいます。それらのような資格を持っている人に、再度社会貢献していただく仕組みを作ってはいかがでしょうか。

また、思い付きではありますが、人口の減少で苦しむ吉野町では、まちづくり協議会において、町民さんと行政職員に対し、防災士の資格を取る研修の受講を奨励しています。そのような取組を通して、

住民の質を上げようとしています。そんな方々が地域のコミュニティに数多くいてくれば、地域の安全形成もすごく向上します。また、地域にいる「～士」という人をつかまえて、顔と名前が分かる地域制度にしなければなりません。個人情報の保護、データを出してはいけないなどの議論が出てくると思われますが、「(コミュニティの中で情報を共有しても) いいよ」という関係性、半透明のプライバシーの世界をコミュニティにおいて作るべきです。どのように作るかはものすごく大きい課題ではありますが、「地域コミュニティの育成強化」だけでなく、「地域に対する誇りと愛着」、「地域の連帯意識を高め住み慣れた地域でいつまでも安全安心に暮らせるまちづくり」を進めるためにはどうすれば良いかを、次の計画に記載しなければならないと思います。

仁井委員と高島委員の意見には共通の危機感があり、「安心して暮らしたい」という強烈な願いに基づいていると思いますが、それが現在は崩れつつあります。それをどのようにすれば食い止められるか、あるいは作り上げていけるかといった強い危機意識を持って基本計画は策定してもらいたいと思います。健康でなくなる、金がなくなる、時間がなくなる、家族がなくなる、自治会長を頼まれてもしんどくてやってくれないなど、リーダーは徐々に消えていきます。その仕組みをどのように変えていくか、ということです。

委員：先ほど話が出ていたように、総合戦略の関係で休憩していましたが、基本構想は一旦承認しているということで、近年の変化を踏まえ色々変更いただくなど、大変ご苦労でございました。個人的には、あまり堅苦しくなりすぎると住民の方々が目を通してくれないという思いがあります。他市町の基本計画・基本構想を参照してみると、イラストや写真を活用していたりするので、そのような手法も検討してはどうかと思いました。

計画の体系における、共通のまちづくり目標、まちづくり目標1～5と将来像という構成について、例えば33ページのように、個々の目標を達成することによって、将来像が形成されるといったように、まちづくり目標を将来像に絡めて上手く図にできないでしょうか。そのような形で作成すると分かりやすいと思います。また作成に当たっては、政策や施策の文言を一部踏まえることで、住民の方も見やすくなると思います。なぜ住民の方も見やすくするというのを提案したのかということ、それぞれの地域が事業やお祭りなどによって人を集める時、見やすい案内の文章であれば目を引き、割とみなさんが参加してくれるためです。基本計画にしる、基本構想にしる、住民の方々自身が自発的に参加しなければいけないと思っていただくために、分かりやすいものを作るべきです。

会長：とても大事な提案をいただきました。基本構想33ページの絵について、左側は行政の課題であり、右側は団体になっています。一見これは良く見えますが、消防団は消防・防災、防犯協議会は防犯、社会福祉協議会・校区委員会は福祉という風に、住民団体も縦割りになっていると思います。これはこれで良いと思いますが、もう一つ別の図面を作ってはどうかという意見かと思っています。例えば、現実には自治会・町内会が色々な課題に対応しているため、全部に線を引いても良いと思います。その横に、社会福祉協議会・校区委員会は高齢者福祉・障害者福祉に対してすごく大きな応援をしていますという点を結ぶというような分布図を作ってはどうかと思います。

ご当地である王寺町の町内会・自治会はしっかりしていると思いますが、私が住む豊中市などにおいて自治会・町内会は、葬式の世話、秋の運動会、回覧板の3つしか承知せず、福祉は校区委員会、教育はPTA、防犯は防犯協議会、交通は交通安全委員会、といったように縦割りになっています。そ

のような地域であれば少ない線を引いたら済みますが、王寺町の自治会は全部関わっているかもしれないため、社会福祉協議会・校区委員会は福祉に関して太い線を引くといったように線に太い・細いの強弱をつけるなど図の書き方を工夫して、課題と団体をつなぎ直してほしいということです。

委員： 前回は質問させていただいた内容なのですが、5年間のブランクをどのように表現するかということに関して言うと、中位計画の策定においては、策定する予定だった基本構想、基本計画の途中段階だったものもしっかりと参考にしながら進めてきたということで、今回策定する総合計画と大きなズレは出てこないと思われます。

また、先ほど会長から、もしズレが出てきた場合はそれぞれ見直していきましょうという意見を聞かせていただきましたので、安心しました。

加えて、今回の基本構想の修正部分について、新しい情報を盛り込んでいただけるということであり、人口ビジョンや総合戦略など具体的な町の指針として進めてきた部分も、ある程度反映されている気はいたします。なお、11ページの新しい内容である「第4次産業革命時代の到来」において、IOTでモノと、あえてカタカナで表現されています。この部分について、事務局で意識されたことは何かを確認したいです。また、ワークショップで出された意見について、会長の話にもあったとおり、非常に貴重な住民意見の集約なので、是非とも基本計画に、住民の役割分担を踏まえしっかりと盛り込んでいただきたいです。なかには、町として既に進めているもの、これから進めていくものもあります。協働の方法、しっかりと引っ張ってくれる人を中心に、他の人も巻き込んでもらえるような仕組みを考えていかなければなりません。また、協働という有用な言葉に関して、アンケート44ページの協働に対する考え方において、10代の16.7%が「あまり推進すべきでない」を選択しています。この10代の考え方はいかがかなと思いますので、この10代の方々にも協働の重要性をPRしていく必要があると思います。

会長： 議会の立場からもご助言いただいたと思いますが、2011年の地方自治法の改正で、第2条第4項の基本構想策定義務が削除されたため、違法ではないけれども、自治体にとっての最上位計画である総合計画・基本計画が無いという事態は避けるべきだと私も思います。議会の報告事項であり軽い話ではありません。空白期間の責任は問われなと思います。総合計画は、より拘束力のある最上位計画として位置づけることを宣言いただきたいです。今までなかったのは、まち・ひと・しごと創生総合戦略を先に策定する必要があり、そちらの策定を急いだということです。それによって、まち・ひと・しごと創生総合戦略と総合計画の二者を整合しないといけないという難しい局面に追い込まれ、その難しさは私も理解できますが、心機一転、最上位計画という位置づけを確認して作業を進めて下さい。

委員： 社会潮流の変化についてですが、基本構想は今後10年間の見通しなので、短期的な検討よりも、今後10年間において大きな波がどうなるかということを狙って策定いただきたいと思います。合計特殊出生率の推移についても、たまたま2017年は1.82と高い数値でしたが、これも上下変動があるものなので、増えているということは言えますが、表現は慎重にしていきたいです。

また、第4次産業革命などの社会情勢の変化が王寺町にどのような影響を与えるのかということについて、一言つけ加えていただくと分かりやすいと思います。まちの将来像について、時代変化を踏まえ手直しいただいたとのことですが、さらに基本計画の柱となる部分でご修正いただきたい箇所が

何点かあります。

まず施策の大綱の政策1の「協働の仕組みの構築」についてですが、33ページの図に関しても世の中の「協働」の概念と整合しているか疑問があるため、その精査をお願いしたいです。例えば先ほどのアンケート45ページ「協働を進めるために必要なこと」に関して、「住民が参加しやすいイベント等の開催や機会の提供」が一位となっていますが、今の世の中においてこれは協働ではなく、住民参加であると思います。その意味で、協働と住民参加が一緒くたになっていると考えられ、この混同は、どのようなアクションをしたら良いかを検討するに際して、障壁になると思います。ついでに44ページの設問で10代の協働に対して推進すべきでないという回答した16.7%についてですが、10代は6名しか母集団がおらず統計的には何とも言えないため、気にする必要はないと思います。若い世代はボランティアにもたくさん参加していますので、NPOを作って参加を促すことなどにより、協働をしっかりと理解していただいた方が活動もしやすいと思います。学習の機会も増やしていく必要があります。

政策の4「都市基盤の充実」において、駅周辺に色々都市機能の集積を図ると、アンケートの「駅前に高層ビルや高層マンションが立ち並ぶ都市機能は望んでいない」という結果と異なることを書いていますが、それは良いのでしょうか。実際にこのようなことが可能なのかという疑問もあります。

政策の5「交通ネットワークの整備」の町内の交通に関しても、どなたかが言われましたが、バス路線廃止で言うと、確かに幹線の交通は優れていますが、その末端交通はどんどん手薄になってきているようなので、そのようなことを書き込んでいかなければならず、「西和地域の核」ということだけでは済まないと思います。このような多面的なことを盛り込まないと、実際の施策を作り込む際に困ると思います。

政策16「生涯学習の充実」について、単なるカルチャーセンターの話ではなくて、人権教育であったり、他方ではまちづくり学習であったり、学習しながら地域に活用するという視点がないと、生涯学習の意味が消えてしまう可能性があります。

また、政策18「活力の創出」において、活力や賑わいの話がありますが、活力や賑わいとはいったい何なのかということ、真剣に考える必要があると思います。単にスーパーやイオンが来たから活力が生まれたという発想では、間違いの元となります。大きな活力もあれば小さな活力もあるし、もう少し精緻に考えないと、具体的に何をすべきか見えてこないです。

最後に、34ページ「地域コミュニティの育成強化」について、育成強化というのは失礼な話で、育成しないといけないのは行政ではないかという話もあるので、少し上目線の表現になってしまっていると思います。また、色々な自治会の活動がありますが、それらをもう少し包括的にまとめた、地域協議会、住民自治協議会のような協議会を作っていくという方向性があるのか、ないのかということが、ここからは見えてきません。お互いの力を補完し合って総合力を高めていくという話があちこちで出ていますので、その記述は要らないのかなと疑問に思います。

会長： 本当は、今の話の3倍ぐらい言いたいことがあると思います。今の話の中で一番大事なのは、基本構想に書くべきなのかわかりませんが、基本的に王寺町の自治というものが、行政や議会が責任を持って行うべき団体自治と、住民が担っている住民自治の二つがあるということです。

住民自治は、自治会や町内会、あるいはNPOや個人ボランティアが担ってくれています。しかしこ

のまま高齢化が進むと、跡継ぎがいなくなり弱ってくる可能性があります。弱ってくると、行政コストでそれらに取り組みなければならないということは認識した方が良いと思います。香芝市では、防犯灯の設置に際して、誰が設置するのか、データを誰がチェックするのか、電気代は誰が負担するのかについて、全て役所でいいのかという話になりました。なぜ防犯灯がいるのかというと、子どもの安全の確保や、夜間の女性の安全のためであり、それは結局、挨拶も何も交わさない冷たいまちに起因するという話になります。このように、住民自治が弱れば全て団体の責任になるという危機意識を持たないといけません。住民自身もしっかり自治の意識を持たなければならないということを記載すべきです。今回の総合計画・基本計画において、団体自治で行うのはこれ、住民自治はこれ、住民自治のなかでも総合型住民自治に期待したいのはこれ、現在の自治会レベルに期待したいのはこれ、個人別に期待したいのはこれという風に、きっちり記載すべきです。なおかつ、行政と住民が手を結んで取り組めば良いのはこれ、という仕分けをしてくれたらありがたいということです。そうしなければ、全てを行政がやるというものに見えてしまいます。それらをひっくるめると、次の基本計画の構成もだいぶ見えてくるのではないのでしょうか。

また、先ほど生涯学習に関して、示唆に飛ぶ手厳しいご指摘がありましたが、確かにその通りで、生涯学習というのは、暇と金と体力が余った中高年の方々の活躍センターを作ることはありません。自立的に暮らすことが辛い一人暮らしの男性のためのお料理教室を行ってあげる、家事労働を教えるなど、そのようなものが生涯学習です。また、短期型就労で職場からはじかれてしまった女性たちのための会社起こしの方法や新しい技術発見のノウハウを教授するなど、生きるための学習を促すことが生涯学習です。それがなぜか余暇社会活動に化けてしまいました。そここのところの考えを改めてほしいと思います。先ほどおっしゃった、地域のための自治会ベースのまちづくり計画を作りたい、そのための現状分析データを拾いたい、防災計画を作りたいといった時に協議ができるためのスキルを鍛錬することが、ユネスコが言っている生涯学習の大目標である「集団的自己決定」ではありませんでしたか。それが現況、個人的な自己実現の場になってしまっています。「私が楽しければいい」では困ります。余暇活動のために税金を使える様な時代ではないということ、はっきりと提示してはいかがですか。もし楽しみたければ、自己責任・自分の費用でやって下さいという時代であるという危機感を出すべきだと思います。生涯学習はその観点から言うと、高齢者の活用があちこちにつながっていくように、生涯学習もまた、防犯、防災、高齢福祉などクモの巣のように全ての施策につながってきます。そのような良い計画になっていったら良いと思います。

それでは次に「今後のスケジュール（案）について」説明をお願いします。

5. 今後のスケジュール（案）について 事務局説明

会 長： これまで本日の審議事項は終了ですが、次の審議会は7月ぐらいになるということでしょうか。

事務局： はい。

会 長： それまでの間、本日出てきた意見や、ワークショップの材料、環境変化等のデータを徹底的に吟味していただいて、行政内部で基本計画原案を作っていただくこととなります。そこで出来上がった基本計画案を、7月以降の何回かの審議会で採みあげていき、11月に成案にするということでしょうか。

委員： 先ほどの「モノ」のカタカナ表記についてご意見をいただきたいです。

事務局： I o T（モノのインターネット）におけるモノは様々なものがインターネットにつながってデータ化される状況で、一般的にモノはカタカナで表記されていますので、「様々なもの」という意味合いかと思えます。特に他意があってカタカナ表記にしているわけではありません。

6. 閉会

事務局： 本日のご意見を踏まえ、基本構想に反映するもの、基本計画に反映するものを整理させていただき、基本構想については、会長・副会長と調整させていただくということによろしいでしょうか。

会長： 基本構想に関する微調整に関しまして、会長・副会長・事務局に権限委任していただけますでしょうか。

全委員： はい。

事務局： それでは本日はありがとうございました。

以上